

専修学校 しぽーと

「学歴社会」と呼ばれる一方で、不安定な経済状況のあおりを受けて、高学歴でも職に就くことのできない若者が増えています。そんな中、即戦力になる人材育成に力を入れる専修学校が人気です。医療現場もそのひとつ。人の健康と命を預かる仕事だけに、気を抜けない仕事だが、やりがいも大きい。看護職を目指し専修学校で学ぶ学生さんに話を聞きました。

「看護の仕事は想像以上に奥深いもの。仕事を通して自分も成長できます」と話す大西さん。充実した教育内容で3年間みっちり学ぶこと、しかも大学より1年早く現場に出て働けることから、ベルランド看護助産専門学校に進んだ。

授業では、豊かな人間性をもった看護師を育成するため、保健・医療・福祉にかかわる分野を幅広く学ぶ。カリキュラムは主に、講義・演習・臨床実習で構成。実習先は、系列の病院や高齢者施設が中心だ。「貫いた教育体制の中で学べるので、学校と現場とのギャップに悩むこともありません。覚えることが多く、内容も難しいのですが、抜けませんが、その分、学びがいは大きいですね」

授業だけでなく、模擬店やバザーでにぎわう文化祭、クラス対抗で

競技を行う体育祭など、学校生活も充実している。「学年を超えた縦のつながり、同学年の横のつながりが強く、学生同士の交流も盛んです」

「実習では、患者さんから励まされたり、看護のあり方を学んだりすることも多かった」という大西さん。「卒業後はさまざまな病棟で看護経験を積み、将来はターミナルケア(終末医療)にかかわりたい。そして患者さんの精神的支えとなる看護師をめざしたいと思っています」

ベルランド看護助産専門学校
看護学科3年

大西 美帆さん



充実した教育内容

将来はターミナルケア

に携わりたい